

地場企業の経営動向調査

(平成19年度 第1四半期)

平成19年 8月 3日

 福岡商工会議所

事業推進部 経済振興グループ

TEL 092-441-1118

調査目的

福岡市内地場企業（一部福岡市近郊を含む）の景況及び経営動向を把握すると同時に、これらの情報を企業へ提供し、企業経営の参考に資するものである。

調査対象

当所会員企業を対象とし1,500社を任意抽出したもので、対象企業の内訳は中小企業 1,425社（構成比率95.0%）、大企業75社（構成比率5.0%）により構成されている。

回答した企業数は738社、回答率49.2%となっており、回答企業の内訳は、中小企業679社（構成比率92.0%）、大企業59社（構成比率8.0%）となっている。

中小企業の範囲は中小企業基本法の定義に基づく。

調査要領

四半期毎にアンケート用紙を郵送、前年同期比の回答を求めるもので、今回は平成19年4～6月期の実績、及び平成19年7～9月期の予想について、平成19年6月末時点で調査した。

調査内容

DI値を集計（DI=「良いとする回答割合」-「悪いとする回答割合」）

DI・・・ Diffusion Index（景気動向指数）の略

景気・経営動向調査

- 1．自社・業界の景況
- 2．生産額、売上額、完成工事高
- 3．原材料・製（商）品仕入価格
- 4．受注価格、販売価格
- 5．製（商）品在庫
- 6．営業利益
- 7．売掛期間
- 8．資金繰り
- 9．100万円以上の新規借入

平成19年度 第1四半期

調査対象企業数及び回収結果

規模別	対象数	回答数	回答率	回答結果の構成比
全業種	1,500	738	49.2%	
中小企業	1,425	679	47.6%	92.0%
大企業	75	59	78.7%	8.0%

業種別	対象数	回答数	回答率	回答結果の構成比
全業種	1,500	738	49.2%	
建設業	314	167	53.2%	22.6%
土木建設業	114	59	51.8%	8.0%
建設付帯工事業	79	56	70.9%	7.6%
電気・管工事業	121	52	43.0%	7.0%
製造業	221	115	52.0%	15.6%
食料品製造業	46	26	56.5%	3.5%
繊維製品製造業	13	7	53.8%	0.9%
建材・木・紙製品製造業	7	4	57.1%	0.5%
印刷・製本業	44	20	45.5%	2.7%
窯業・土石製品製造業	8	5	62.5%	3.0%
金属製品製造業	23	15	65.2%	2.0%
一般機械器具製造業	20	10	50.0%	1.4%
電気機械器具製造業	24	19	79.2%	2.6%
その他製造業	36	9	25.0%	1.2%
卸売業	333	168	50.5%	22.8%
食料品卸売業	63	27	42.9%	3.7%
繊維製品卸売業	65	30	46.2%	4.1%
建材・住宅機器卸売業	60	33	55.0%	4.5%
紙・文具・事務機卸売業	6	2	33.3%	0.3%
金属・鋼材卸売業	2	2	100.0%	0.3%
一般機械器具卸売業	32	21	65.6%	2.8%
電気機械器具卸売業	13	9	69.2%	1.2%
石油・化学製品卸売業	12	8	66.7%	1.1%
ゴム・皮革製品卸売業	2	2	100.0%	0.3%
その他卸売業	78	34	43.6%	4.6%
小売業	210	95	45.2%	12.9%
食料品小売業	44	21	47.7%	2.8%
衣料品・身の回り品卸売業	45	18	40.0%	2.4%
石油・化学製品小売業	25	8	32.0%	1.1%
車両運搬具小売業	14	9	64.3%	1.2%
家電・厨房器具小売業	10	7	70.0%	0.9%
百貨店・セルフ店	11	4	36.4%	0.5%
その他小売業	61	28	45.9%	3.8%
運輸・倉庫業	62	31	50.0%	4.2%
旅客運送業	16	12	75.0%	1.6%
貨物運送・倉庫業	46	19	41.3%	2.6%
サービス業	360	162	45.0%	21.9%
情報処理サービス業	51	27	52.9%	3.6%
その他事務所サービス業	216	95	44.0%	12.9%
ホテル・旅館・飲食業	55	22	40.0%	3.0%
その他の個人サービス業	38	18	47.4%	2.4%

「 福商・経営動向調査 」 調査結果

景況概況 (DI 値の動き)

1. 自社業況は、今期 17.0 となり、前期との比較ではマイナス 0.1 ポイントと 2 期連続での悪化となった。
業種別では、小売業がプラス 15.4 ポイント(前期 DI 36.4)と 6 期ぶりに、製造業がプラス 8.9 ポイント(同 21.9)と 2 期ぶりに改善したものの、運輸・倉庫業マイナス 8.9 ポイント(同+5.7)、卸売業マイナス 6.5 ポイント(同 17.9)、建設業マイナス 6.3 ポイント(同 17.0)、サービス業マイナス 1.2 ポイント(同 4.4)の悪化となった。
小売業は依然としてマイナス値ではあるももの、6 期ぶりにマイナス幅が縮小した。一方、運輸・倉庫業は大幅な悪化が続いたことで、4 期ぶりにマイナス値となった。
次四半期(H19 年 7~9 月)の全業種予測 DI 値は 11.1(今期比プラス 5.9 ポイント)となっており、改善が予測されている。
2. 業界の景気動向は、今期 34.0 と前期との比較ではマイナス 2.4 ポイントと 2 期連続して悪化した。
次四半期についてはプラス 9.2 ポイントの改善が予測されている。
3. 生産額、売上高、完成工事高は、今期 10.2 と前期との比較ではプラス 2.7 ポイントとなり、3 期ぶりに改善した。
次四半期については 6.9 とプラス 3.3 ポイントの改善が予測されている。
4. 原材料、製(商)品仕入価格は、今期 42.7 と前期との比較ではプラス 5.6 ポイント上昇した。
次四半期については 40.2 と今期比マイナス 2.5 ポイントの下落予測となっている。
5. 受注価格、販売価格は、今期 13.0 と前期との比較ではプラス 4.6 ポイントの改善となっている。
次四半期については 8.3 とプラス 4.7 ポイントの改善が予測されている。
6. 営業利益は、今期 22.9 と前期との比較ではプラス 5.6 ポイントの改善となっている。
次四半期については 22.5 とプラス 0.4 ポイントの改善が予測されている。
7. 売上増加の理由は、今期はこれまでの順位が逆転し、「得意先開拓・客数の増加」53.7%、「受注、需要の増加」50.3%の順となった。
また、減少の理由は、「受注、需要の減少」73.9%、「客単価の低下」38.3%、「得意先開拓・客数の減少」37.4%、「出荷・販売価格の低下、料金改定」28.4%の順となっている。

- 8 . 当面の経営上の問題点としては、「受注、販売競争の激化」57.0%、「売上高、生産額、工事高の伸び悩み」50.9%、「営業利益の低下」40.7%の3項目へ指摘が集中している。

業種別では、建設業の「官公需要の停滞」41.9%、製造業の「原材料高、入手難」32.3%、「販売価格への転嫁難」45.2%、卸売業の「販売価格への転嫁難」37.4%、小売業の「同業者、類似店、大型店の進出」32.6%、運輸・倉庫業の「人材難、求人難、定着性の悪化」48.4%、「経費の増加」41.9%、サービス業の「人材難、求人難、定着性の悪化」39.5%が挙げられ、いずれも3割を超す指摘となっている。

参考指標

日経平均株価	18,138.36 円	(平成 19 年 6 月 29 日 終値)
対米ドル円相場	124.26 円	(平成 19 年 6 月 29 日)
対ユーロ円相場	167.14 円	(平成 19 年 6 月 29 日)
原油価格(WTI)	US\$70.68/バレル	(平成 19 年 6 月 29 日 終値)

景気判断

7月の月例経済報告(内閣府)では景気の基調判断を「景気は、生産の一部に弱さがみられるものの、回復している」とし、前月の判断を据え置いた。

併せて「企業収益は改善し、設備投資は増加している。雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善に広がりが見られる。個人消費は、持ち直している。輸出は、横ばいとなっている。生産は、横ばいとなっている。先行きについては、企業部門の好調さが持続し、これが家計部門へ波及し国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれる。一方、原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。」としている。

当所の今四半期(平成19年4~6月)調査において、地場企業の自社業況判断指数(DI値=前年同期と比較し「良くなった」とする回答割合から「悪くなった」とする回答割合を引いた数値)の全業種平均DIは17.0で前期比マイナス0.1ポイントと2期連続の悪化となった。

【DI値の推移】

H16 第2 期	H16 第3 期	H16 第4 期	H17 第1 期	H17 第2 期	H17 第3 期	H17 第4 期	H18 第1 期	H18 第2 期	H18 第3 期	H18 第4 期	H19 第1 期
27.3	23.5	25.7	17.7	17.3	3.0	10.4	17.1	17.4	11.2	16.9	17.0

まとめ

今期の自社業況については、2期連続しての悪化。6業種中4業種で悪化がみられた。次期予測(DI値11.1)においては、3期ぶりに改善(今期比プラス5.9ポイント)が予測されている。

DI値は(平成3年度第2四半期以来)64期連続でマイナス値となった。

全般的に「景気回復と云われて久しいが、原材料の値上り分を販売価格へ転嫁できず、また、業者間の価格競争がより一層厳しくなってきたおり、利益の減少が続いている」といった声が、目立っている。

特に、今回、前期はプラス値となっていた大企業も今期はマイナス16.3ポイントのDI値6.8と再びマイナス値に転じた。一方、調査対象9割超を占める中小企業においては、前期比プラス0.9ポイントと2期ぶりの改善がみられたもののDI値は17.8と依然低水準にある。大・中小企業と

も改善と悪化を繰返し、一進一退の状況が続き、依然景気回復の実感が得られていない。

業種別では、製造業、小売業で業況感の改善がみられたものの、建設業、卸売業、運輸・倉庫業、サービス業の4業種については業況感の悪化がみられた。

小売業においては依然としてマックス値（DI 21.0）ではあるものの、6期ぶりにマックス幅が縮小（プラス15.4ポイント）した。

一方、運輸・倉庫業はマックス幅が拡大（マックス8.9ポイント）したことで、4期ぶりにマックス値（DI 3.2）となった。「原油高による燃料費の高騰分を運賃に転嫁できず、経費増加が懸念される」といった声が数多く上がっており、この先の見通しがつきにくい状況にある。

コメント(抜粋)

売上に対しての利益の減少が著しく、特に競争の激化が甚だしい。(建設)

建設工事に関する公共工事が減少しているために売上高が減少し、景気回復の実感が全くない。(建設)

非鉄金属の値上がりに対し、販売価格への転換難。官需の減少。(製造)

大型商業施設の『まちづくり3法』前の駆け込み出店が相次ぎ、また、中央資本の競合他社との競争激化で地場企業の苦戦は相変わらず続いており、メーカー直SPA型の店舗出店も増加し、専門店の衰退は加速度をましてきている。(卸売)

原材料高により利益率が低下。安価な輸入品により顧客が減少した。(卸売)

各々の商業施設間の競合及び商業施設内の同業者間の競合に激しさが増してきている。(小売)

人材の確保が難しくなっている。(小売)

原油高による燃料費の高騰分を運賃に転嫁できず、逆に運賃値下げの依頼が多くなった。(運輸)

他業界からの参入が激しくなっている。(サービス)

人手不足、価格の下落。(サービス)

1. 自社・業界の景況

《自社景況は2期連続して悪化、次期予測は反転し改善へ》

今四半期（H19年4～6月）の地場企業の景況判断指数（DI値）は、全業種平均で「良くなった」と回答した企業割合は22.7%（前期比-0.3ポイント）、悪くなったと回答した企業割合は39.7%（前期比-0.2ポイント）、横ばいであると回答した企業割合は37.4%（前期比+0.5ポイント）となった。
DI値は 17.0(前期DI 16.9)となり、前期比で-0.1ポイント悪化した。

業種別に対前期比でDI値を見ると全業種中、小売業が+15.4ポイント（前期DI 36.4）と6期ぶりに、製造業が+8.9ポイント（同 21.9）と2期ぶりに改善したものの、運輸・倉庫業-8.9ポイント（同+5.7）、卸売業-6.5ポイント（同 17.9）、建設業-6.3ポイント（同 17.0）、サービス業-1.2ポイント（同 4.4）の悪化となった。

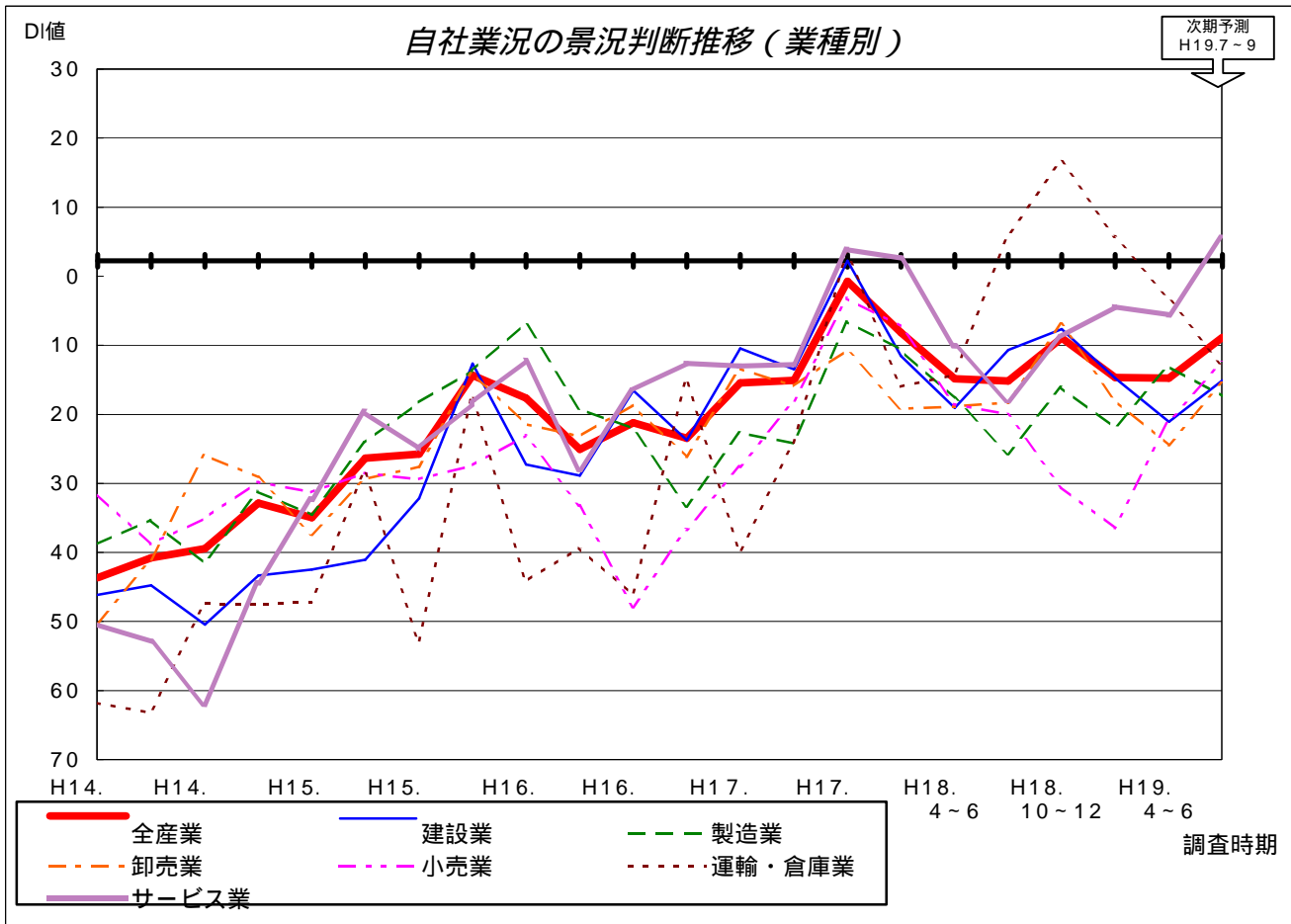
また、規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比+0.9ポイント（前期DI 18.7）改善したが、大企業では-16.3ポイント（同+9.5）の悪化となった。

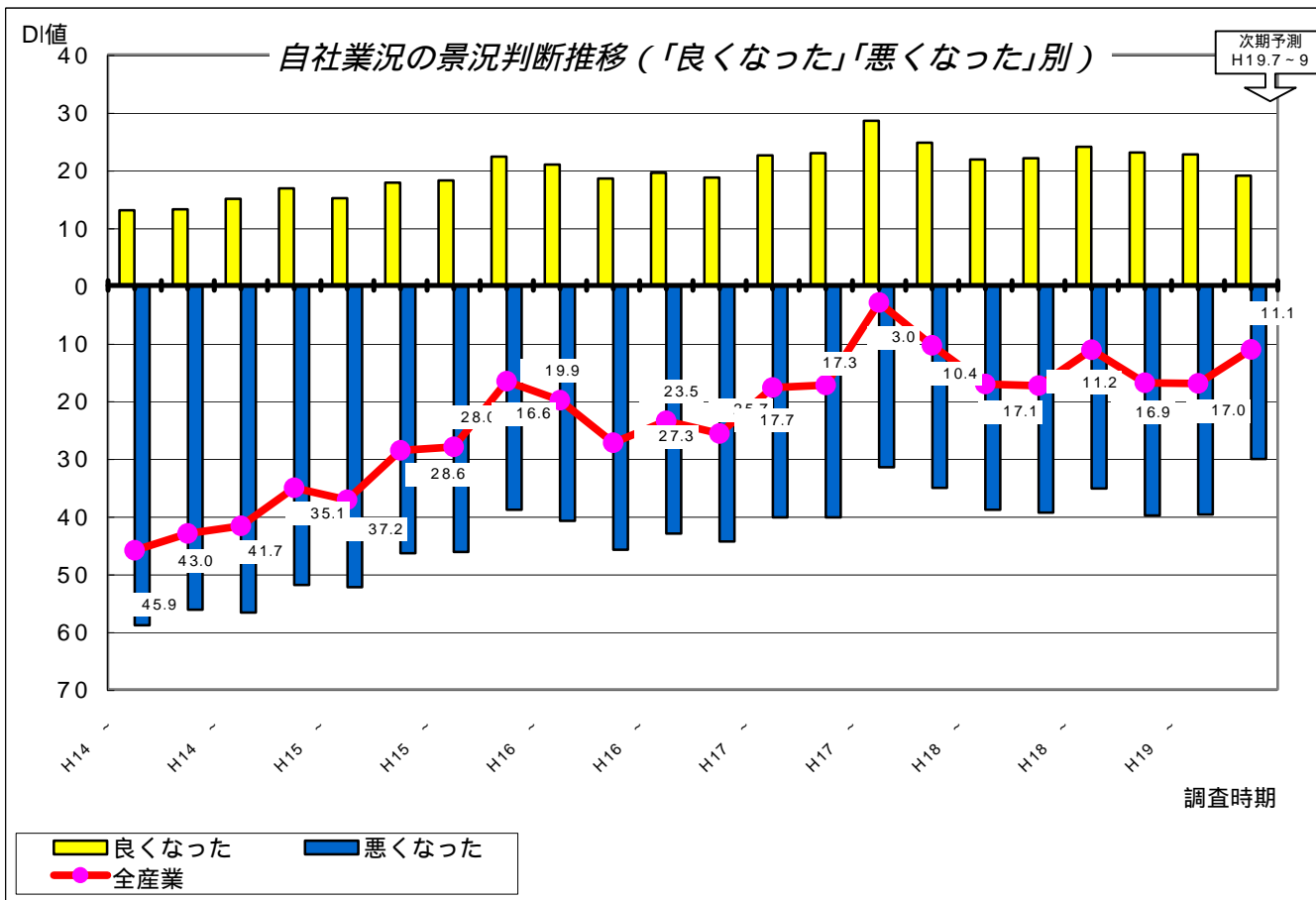
次四半期（H19年7～9月）の全業種予測DI値は 11.1（今期比+5.9ポイント）となっており、改善が見込まれている。

《自社業況の総合判断(前年同期と比較して)》

(単位 %)

	今四半期(19年4～6月期)実績							次四半期(19年7～9月期)予測						
	非常に良くなった	やや良くなった	横ばい	やや悪くなった	非常に悪くなった	未記入	D値	非常に良くなる	やや良くなる	横ばい	やや悪くなる	非常に悪くなる	未記入	D値
全業種	2.4	20.3	37.4	33.7	6.0	0.1	17.0	1.5	17.5	46.7	26.3	3.8	4.2	11.1
建設業	0.0	16.8	43.1	32.3	7.8	0.0	23.3	1.2	14.4	46.7	26.9	6.0	4.8	17.3
製造業	2.6	23.5	34.8	33.9	5.2	0.0	13.0	0.9	16.5	46.1	30.4	4.3	1.7	17.3
卸売業	3.6	17.3	33.9	39.9	5.4	0.0	24.4	2.4	14.9	44.6	29.2	3.6	5.4	15.5
小売業	3.2	20.0	32.6	37.9	6.3	0.0	21.0	1.1	21.1	40.0	32.6	2.1	3.2	12.5
運輸・倉庫業	0.0	25.8	45.2	25.8	3.2	0.0	3.2	0.0	12.9	61.3	25.8	0.0	0.0	12.9
サービス業	3.7	24.1	38.3	27.8	5.6	0.6	5.6	1.9	22.8	50.6	16.0	3.1	5.6	5.6
中小企業	2.7	19.7	37.3	33.9	6.3	0.1	17.8	1.6	17.2	46.5	25.9	4.1	4.6	11.2
大企業	0.0	27.1	39.0	32.2	1.7	0.0	6.8	0.0	20.3	49.2	30.5	0.0	0.0	10.2





業界の景況

《2期連続して悪化、次期予測は反転し改善へ》

地場企業から見た自社の属する業界の景況判断指数（DI）は、全業種平均で「良くなった」と回答した企業割合が10.4%、「悪くなった」と回答した企業割合が44.4%、横ばいであると回答した企業割合が43.8%となっており、DI値は34.0（前期DI 31.6）と前期比で-2.4ポイント悪化している。

業種別に対前期比でDI値を見ると、小売業で+17.2ポイント（前期DI 57.2）、サービス業+5.4ポイント（同 20.3）、製造業+0.9ポイント（同 32.3）の改善が見られたものの、運輸・倉庫業-19.0ポイント（同 +2.9）、卸売業-13.0ポイント（同 36.4）、建設業-8.5ポイント（同 29.8）の悪化となった。

規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比-1.8ポイント（前期DI 32.0）、大企業では前期比-9.3ポイント（同 26.3）の悪化となった。

次四半期予測DI値は24.8と今期比+9.2ポイントの改善が予測されている。

《業界の景気動向（前年同期と比較して）》

（単位 %）

	今四半期（19年4～6月期）実績							次四半期（19年7～9月期）予測						
	非常に良くなった	やや良くなった	横ばい	やや悪くなった	非常に悪くなった	未記入	D値	非常に良くなる	やや良くなる	横ばい	やや悪くなる	非常に悪くなる	未記入	D値
全業種	0.9	9.5	43.8	36.9	7.5	1.5	34.0	0.4	9.3	49.7	29.9	4.6	6.0	24.8
建設業	0.6	8.4	43.1	34.7	12.6	0.6	38.3	0.6	9.6	46.1	31.1	7.8	4.8	28.7
製造業	1.7	5.2	53.0	35.7	2.6	1.7	31.4	0.9	5.2	60.9	26.1	2.6	4.3	22.6
卸売業	0.6	6.5	34.5	47.6	8.9	1.8	49.4	0.0	6.5	45.2	35.7	5.4	7.1	34.6
小売業	1.1	10.5	35.8	46.3	5.3	1.1	40.0	1.1	10.5	42.1	40.0	2.1	4.2	30.5
運輸・倉庫業	0.0	9.7	64.5	22.6	3.2	0.0	16.1	0.0	6.5	71.0	19.4	3.2	0.0	16.1
サービス業	1.2	16.0	48.1	25.9	6.2	2.5	14.9	0.0	14.8	50.6	21.6	3.7	9.3	10.5
中小企業	1.0	9.9	43.0	36.7	8.0	1.5	33.8	0.4	9.4	49.3	29.3	5.0	6.5	24.5
大企業	0.0	5.1	52.5	39.0	1.7	1.7	35.6	0.0	8.5	54.2	37.3	0.0	0.0	28.8

2. 生産額、売上高、完成工事高

《2期ぶりに改善しており、次期予測もさらに改善へ》

生産額、売上額、完成工事高は、全業種平均で「増えた」と回答した企業割合は19.9%、「減った」と回答した企業割合は30.1%となっており、DI値は 10.2（前期 12.9）と前期比+2.7ポイント改善した。

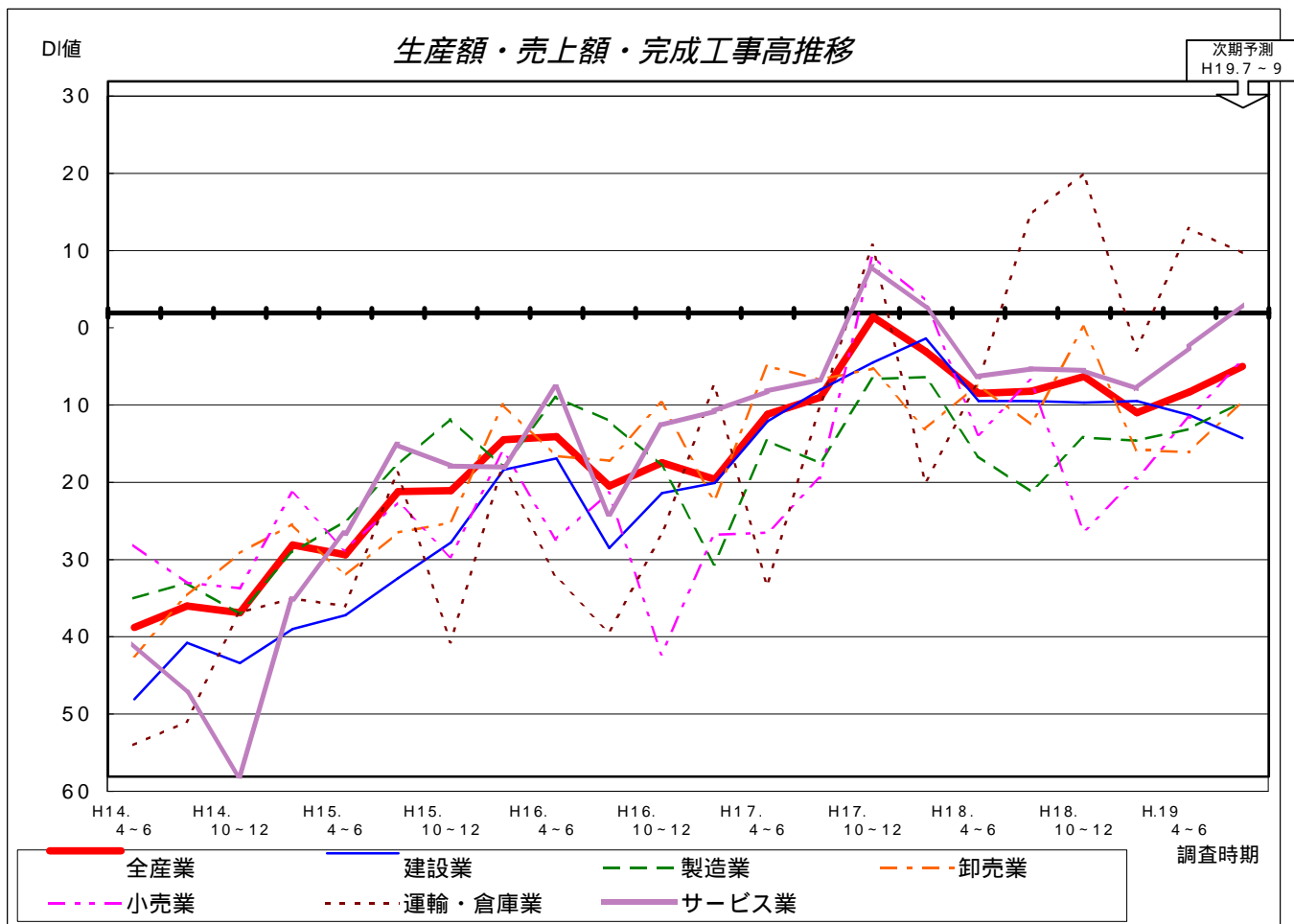
業種別に対前期比でDI値を見ると、運輸・倉庫業+15.8ポイント、小売業+7.9ポイント、サービス業+5.4ポイント、製造業+1.5ポイントの改善が見られたものの、建設業-1.8ポイント、卸売業-0.3ポイントの悪化となった。

売上が増加した理由としては、「得意先開拓・客数の増加」53.7%、「受注、需要の増加」50.3%に集中している。一方で減少した理由としては、「受注、需要の減少」73.9%、「客単価の低下」38.3%、「得意先開拓、客数の減少」37.4%、「出荷・販売価格の低下、料金改定」28.4%の順となっている。

規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比+4.7ポイント(前期DI値 14.7)改善したものの、大企業では前期比-23.7ポイント(同+11.9)の悪化となった。

(単位 %)

	今四半期 (19年 4～6月期) 実績							次四半期 (19年 7～9月期) 予測						
	2ヶタ増	1ヶタ増	横ばい	1ヶタ減	2ヶタ減	未記入	D値	2ヶタ増	1ヶタ増	横ばい	1ヶタ減	2ヶタ減	未記入	D値
全業種	5.0	14.9	45.8	24.1	6.0	4.2	10.2	2.8	12.3	54.6	18.7	3.3	8.3	6.9
建設業	1.2	13.8	52.1	21.0	7.2	4.8	13.2	0.6	7.8	58.1	19.2	5.4	9.0	16.2
製造業	4.3	13.9	50.4	27.0	4.3	0.0	13.1	1.7	11.3	60.0	19.1	3.5	4.3	9.6
卸売業	6.0	13.1	40.5	29.2	6.0	5.4	16.1	3.6	13.1	47.0	23.8	2.4	10.1	9.5
小売業	6.3	16.8	38.9	28.4	6.3	3.2	11.6	4.2	16.8	48.4	23.2	2.1	5.3	4.3
運輸・倉庫業	0.0	29.0	48.4	16.1	0.0	6.5	12.9	3.2	12.9	74.2	3.2	3.2	3.2	9.7
サービス業	8.6	14.8	45.1	19.1	6.8	5.6	2.5	4.3	14.2	54.9	13.0	2.5	11.1	3.0
中小企業	5.0	15.2	45.4	24.2	6.0	4.3	10.0	2.7	12.2	54.5	18.7	3.2	8.7	7.0
大企業	5.1	11.9	50.8	23.7	5.1	3.4	11.8	5.1	13.6	55.9	18.6	3.4	3.4	3.3



参考資料：（ 2 . 生産額、売上高、完成工事高 ）

今期の生産額、売上額、完成工事高が前年同期より増加した主な理由（複数回答可）（単位 %）

増加理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	天候などの自然条件	増加又は減少の注、需要の減少	道路、交通事情の変化	製（商）品又は消費者のニーズの変化	格出の上下、販売価格の決定	促進等の販売	へ新開製、（商）野品	業者大手企業、他	客得数の先増減	又は単価の上昇	取扱量の増減（商）
全業種	6.8	50.3	0.0	4.1	12.2	9.5	18.4	2.0	53.7	10.2	12.9
建設業	4.0	72.0	0.0	4.0	4.0	0.0	8.0	8.0	44.0	16.0	8.0
製造業	9.5	57.1	0.0	9.5	9.5	14.3	19.0	4.8	33.3	23.8	9.5
卸売業	9.4	59.4	0.0	6.3	21.9	3.1	25.0	0.0	53.1	9.4	21.9
小売業	9.1	36.4	0.0	0.0	13.6	31.8	18.2	0.0	59.1	0.0	13.6
運輸・倉庫業	11.1	33.3	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	22.2
サービス業	2.6	36.8	0.0	2.6	7.9	7.9	23.7	0.0	65.8	7.9	7.9
中小企業	6.6	52.6	0.0	3.6	13.1	8.0	19.0	2.2	54.0	10.2	13.9
大企業	10.0	20.0	0.0	10.0	0.0	30.0	10.0	0.0	50.0	10.0	0.0

増加理由	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	取扱品の品質向上	採算部門の縮小	工場、店舗の増設	支店の増設、特約店の増設	老朽化、店舗競争の低下	又は機械の導入、買替	員増、減、外資	手技の増減、運転	又は駐車場の増設	その他	無回答
全業種	4.8	4.8	0.0	3.4	1.4	2.0	5.4	4.8	0.0	2.0	0.7
建設業	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	8.0	0.0	0.0	0.0
製造業	0.0	4.8	0.0	4.8	0.0	4.8	9.5	4.8	0.0	4.8	4.8
卸売業	9.4	6.3	0.0	6.3	3.1	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0
小売業	9.1	13.6	0.0	4.5	0.0	4.5	9.1	4.5	0.0	9.1	0.0
運輸・倉庫業	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0
サービス業	2.6	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0
中小企業	5.1	2.9	0.0	2.2	1.5	2.2	5.8	5.1	0.0	2.2	0.7
大企業	0.0	30.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

今期の生産額、売上額、完成工事高が前年同期より減少した主な理由（複数回答可）（単位 %）

減少理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	天候などの自然条件	増加又は減少の注、需要の減少	道路、交通事情の変化	製（商）品又は消費者のニーズの変化	格出の上下、販売価格の決定	促進等の販売	へ新開製、（商）野品	業者大手企業、他	客得数の先増減	又は単価の上昇	取扱量の増減（商）
全業種	12.2	73.9	2.7	13.5	28.4	2.7	3.2	24.8	37.4	38.3	5.0
建設業	4.3	89.4	0.0	0.0	23.4	0.0	0.0	34.0	23.4	46.8	2.1
製造業	8.3	91.7	2.8	16.7	41.7	2.8	8.3	16.7	27.8	36.1	11.1
卸売業	18.6	74.6	1.7	16.9	44.1	1.7	6.8	16.9	44.1	35.6	5.1
小売業	18.2	51.5	9.1	24.2	15.2	6.1	0.0	27.3	48.5	33.3	3.0
運輸・倉庫業	60.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	80.0	20.0	0.0
サービス業	4.8	61.9	0.0	11.9	14.3	4.8	0.0	31.0	38.1	40.5	4.8
中小企業	12.2	75.6	2.9	13.2	30.7	2.9	3.4	25.9	39.0	39.0	4.9
大企業	11.8	52.9	0.0	17.6	0.0	0.0	0.0	11.8	17.6	29.4	5.9

減少理由	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	取扱品の品質向上	採算部門の縮小	工場、店舗の増設	支店の増設、特約店の増設	老朽化、店舗競争の低下	又は機械の導入、買替	員増、減、外資	手技の増減、運転	又は駐車場の増設	その他	無回答
全業種	2.3	1.8	0.5	2.7	3.2	3.2	5.9	3.2	0.0	5.4	0.9
建設業	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	2.1	2.1	0.0	4.3	4.3
製造業	2.8	0.0	0.0	2.8	5.6	2.8	2.8	0.0	0.0	2.8	0.0
卸売業	5.1	3.4	1.7	1.7	0.0	1.7	5.1	1.7	0.0	1.7	0.0
小売業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.1	3.0	0.0	0.0	6.1	0.0
運輸・倉庫業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	0.0	4.8	0.0	9.5	11.9	2.4	16.7	4.8	0.0	14.3	0.0
中小企業	2.4	1.0	0.5	2.4	2.0	3.4	5.9	3.4	0.0	5.4	1.0
大企業	0.0	11.8	0.0	5.9	17.6	0.0	5.9	0.0	0.0	5.9	0.0

3. 原材料、製（商）品仕入価格

《3期ぶりに上昇、次期予測は反転し下落へ》

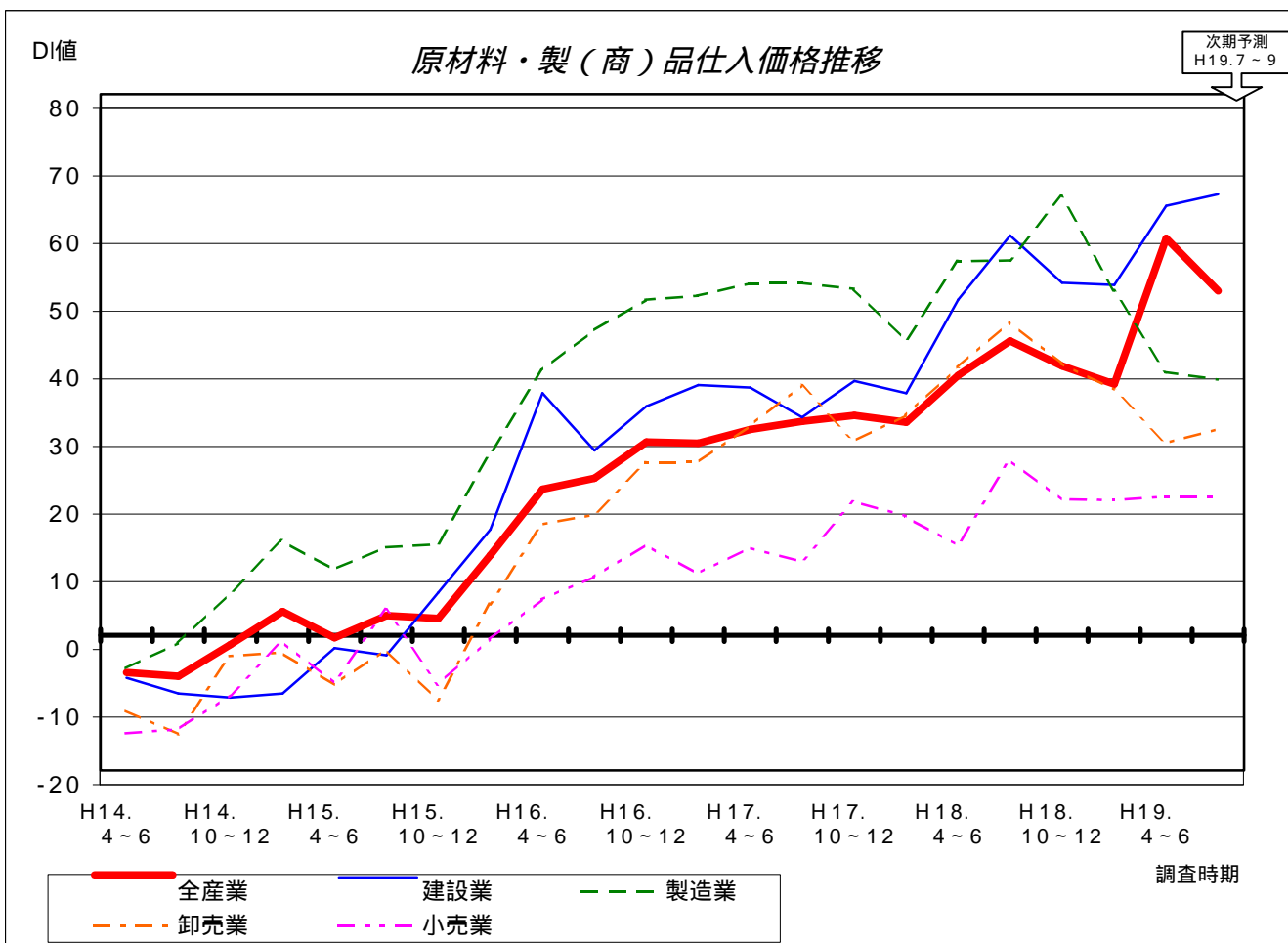
原材料、製（商）品仕入価格は「上昇」と回答した企業割合は44.7%、「下落」と回答した企業割合は2.0%となっており、DI値は42.7（前期37.1）と前期比+5.6ポイントの「上昇」となっている。

業種別に対前期比でDI値を見ると、小売業+8.4ポイント、建設業+6.9ポイント、運輸・倉庫業+5.4ポイント、サービス業+3.8ポイント、卸売業+2.6ポイントの上昇となっているが、製造業は-3.5ポイントの下落となった。

また、次期予測DI値については、40.2となっており、今期比で-2.5ポイントの「下落」予測となっている。

《原材料、製品仕入価格（前年同期と比較して）》（単位 %）

	今四半期（19年4～6月期）実績					次四半期（19年7～9月期）予測				
	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値
全業種	44.7	43.5	2.0	9.8	42.7	42.0	41.3	1.8	14.9	40.2
建設業	59.9	33.5	1.2	5.4	58.7	52.7	33.5	1.8	12.0	50.9
製造業	65.2	32.2	1.7	0.9	63.5	65.2	33.0	0.0	1.7	65.2
卸売業	44.0	51.8	3.0	1.2	41.0	42.3	46.4	2.4	8.9	39.9
小売業	33.7	58.9	3.2	4.2	30.5	34.7	53.7	2.1	9.5	32.6
運輸・倉庫業	25.8	19.4	3.2	51.6	22.6	25.8	19.4	3.2	51.6	22.6
サービス業	25.3	48.8	1.2	24.7	24.1	21.6	46.9	1.9	29.6	19.7
中小企業	46.5	41.8	2.1	9.6	44.4	43.7	39.5	1.8	15.0	41.9
大企業	23.7	62.7	1.7	11.9	22.0	22.0	62.7	1.7	13.6	20.3



4. 受注価格、販売価格

《2期ぶりに改善、次期予測はさらに改善へ》

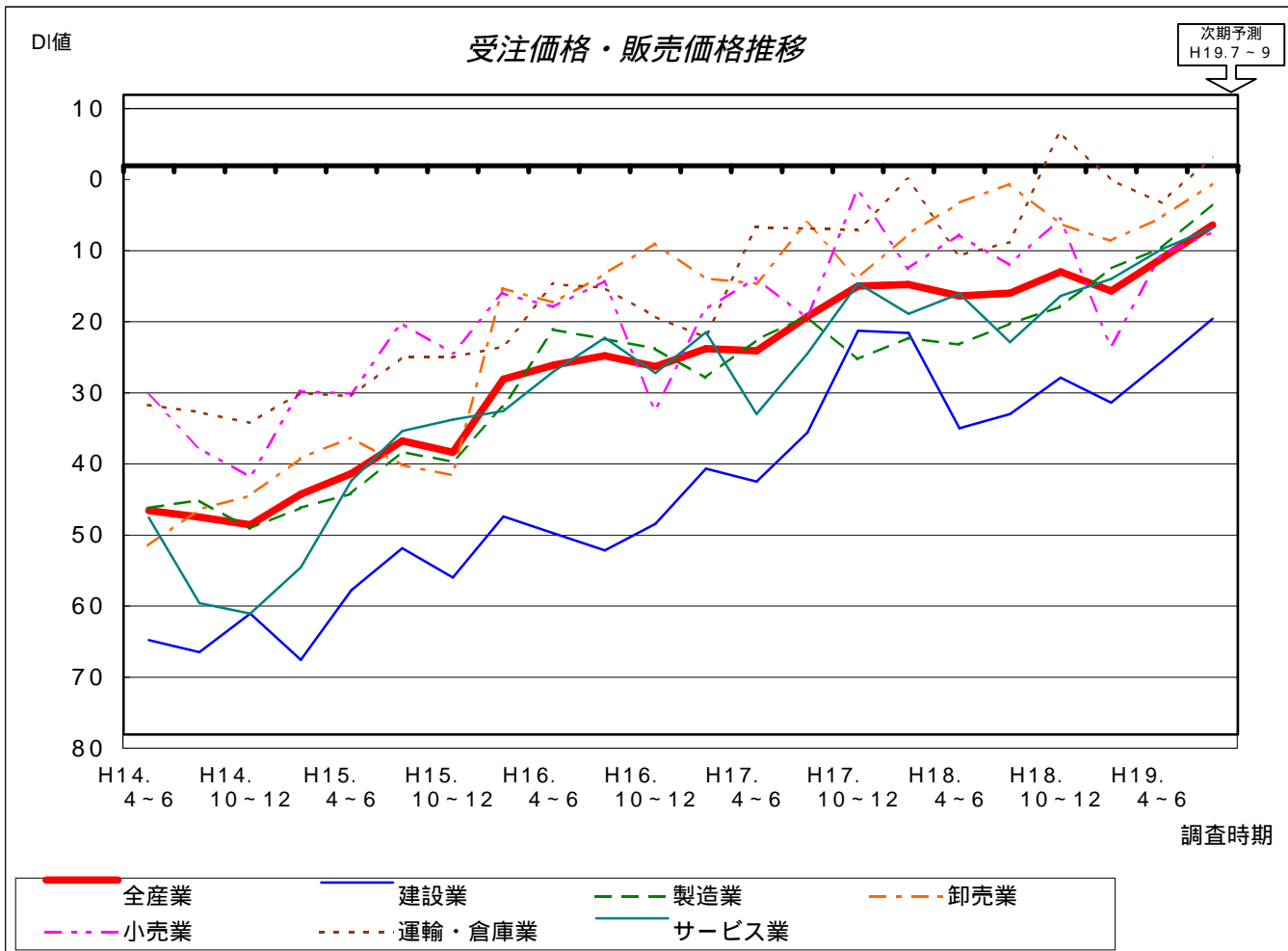
受注価格、販売価格については、「上昇」と回答した企業割合は9.9%、「下落」と回答した企業割合は22.9%となっており、DI値は13.0（前期DI値17.6）と前期比+4.6ポイント改善した。

業種別に対前期比でDI値を見ると、小売業+12.8ポイント、建設業+5.8ポイント、サービス業+4.2ポイント、卸売業+3.3ポイント、製造業+2.9ポイント改善しているが、運輸・倉庫業は-3.3ポイントの悪化となった。

次四半期予測DI値については、8.3となっており、今期比で+4.7ポイントの改善予測となっている。

《受注価格、販売価格（前年同月と比較して）》 (単位 %)

	今四半期 (19年 4～ 6月期)実績					次四半期 (19年 7～ 9月期)予測				
	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値
全業種	9.9	63.0	22.9	4.2	13.0	10.0	61.5	18.3	10.2	8.3
建設業	6.0	56.3	33.5	4.2	27.5	6.6	54.5	28.1	10.8	21.5
製造業	8.7	72.2	18.3	0.9	9.6	10.4	73.0	13.9	2.6	3.5
卸売業	14.9	63.1	20.2	1.8	5.3	14.9	59.5	15.5	10.1	0.6
小売業	12.6	61.1	23.2	3.2	10.6	10.5	63.2	17.9	8.4	7.4
運輸・倉庫業	3.2	74.2	6.5	16.1	3.3	9.7	64.5	6.5	19.4	3.2
サービス業	9.3	62.3	21.0	7.4	11.7	8.0	61.1	16.7	14.2	8.7
中小企業	10.6	62.2	23.1	4.1	12.5	10.8	60.4	18.3	10.6	7.5
大企業	1.7	72.9	20.3	5.1	18.6	1.7	74.6	18.6	5.1	16.9



5. 製(商)品在庫

《前期比横ばい、次期予測は改善へ》

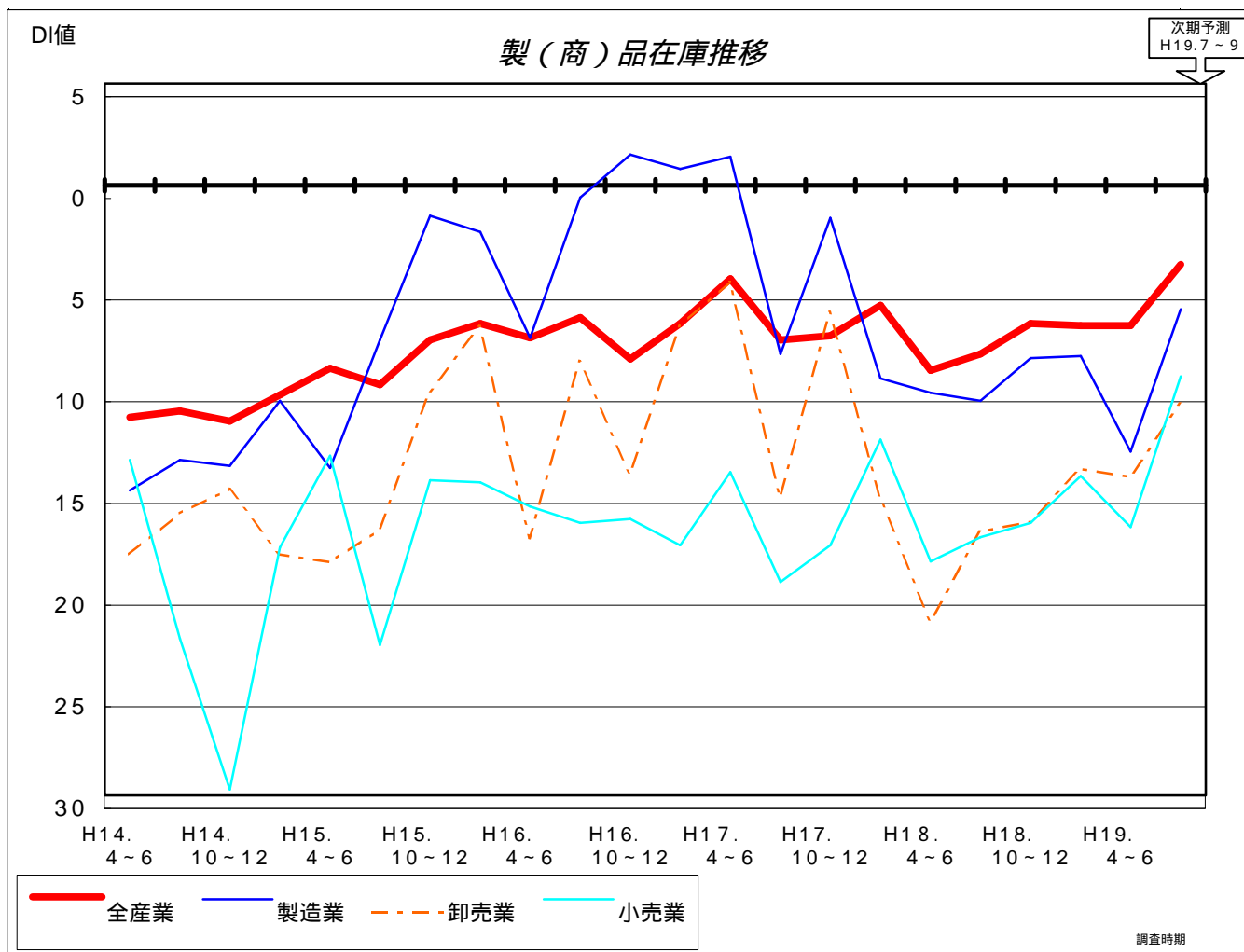
製(商)品在庫は、「適正」と回答した企業割合は62.7%、「不足」と回答した企業割合は3.1%、「過剰」と回答した企業割合は10.0%となっており、DI値は6.9と前期比横ばい(前期DI値6.9)となっている。

次四半期予測DI値については3.9となっており、今期比で+3.0ポイントの改善が予測されている。

《製(商)品在庫(貴社の適正水準と比較して)》

(単位%)

	今四半期(19年4~6月期)実績					次四半期(19年7~9月期)予測				
	不足	適正	過剰	未記入	DI値	不足	適正	過剰	未記入	DI値
全業種	3.1	62.7	10.0	24.1	6.9	3.0	61.4	6.9	28.7	3.9
建設業	1.8	53.3	1.8	43.1	0.0	1.2	50.3	1.8	46.7	0.6
製造業	4.3	69.6	17.4	8.7	13.1	4.3	75.7	10.4	9.6	6.1
卸売業	2.4	78.6	16.1	3.0	13.7	3.0	72.6	13.1	11.3	10.1
小売業	2.1	72.6	18.9	6.3	16.8	1.1	77.9	10.5	10.5	9.4
運輸・倉庫業	3.2	25.8	0.0	71.0	3.2	3.2	25.8	0.0	71.0	3.2
サービス業	4.9	52.5	3.7	38.9	1.2	4.9	48.1	2.5	44.4	2.4
中小企業	3.4	61.9	10.3	24.4	6.9	3.2	60.2	7.2	29.3	4.0
大企業	0.0	72.9	6.8	20.3	6.8	0.0	74.6	3.4	22.0	3.4



6. 営業利益

《2期ぶりに改善、次期予測はさらに改善へ》

営業利益は、「増加」と回答した企業割合は16.1%、「減少した」と回答した企業割合は39.0%、「横ばい」と回答した企業割合は42.5%となり、DI値は22.9（前期DI 28.5）と前期比+5.6ポイント改善した。

業種別に対前期比でDI値を見ると、小売業+10.9ポイント（前期DI 29.9）、サービス業+10.1ポイント（同 27.4）、卸売業+6.5ポイント（同 27.9）、製造業+5.3ポイント（同 32.3）、運輸・倉庫業+2.9ポイント（同 2.9）改善したが、建設業は-0.1ポイント（同 33.4）の悪化となった。

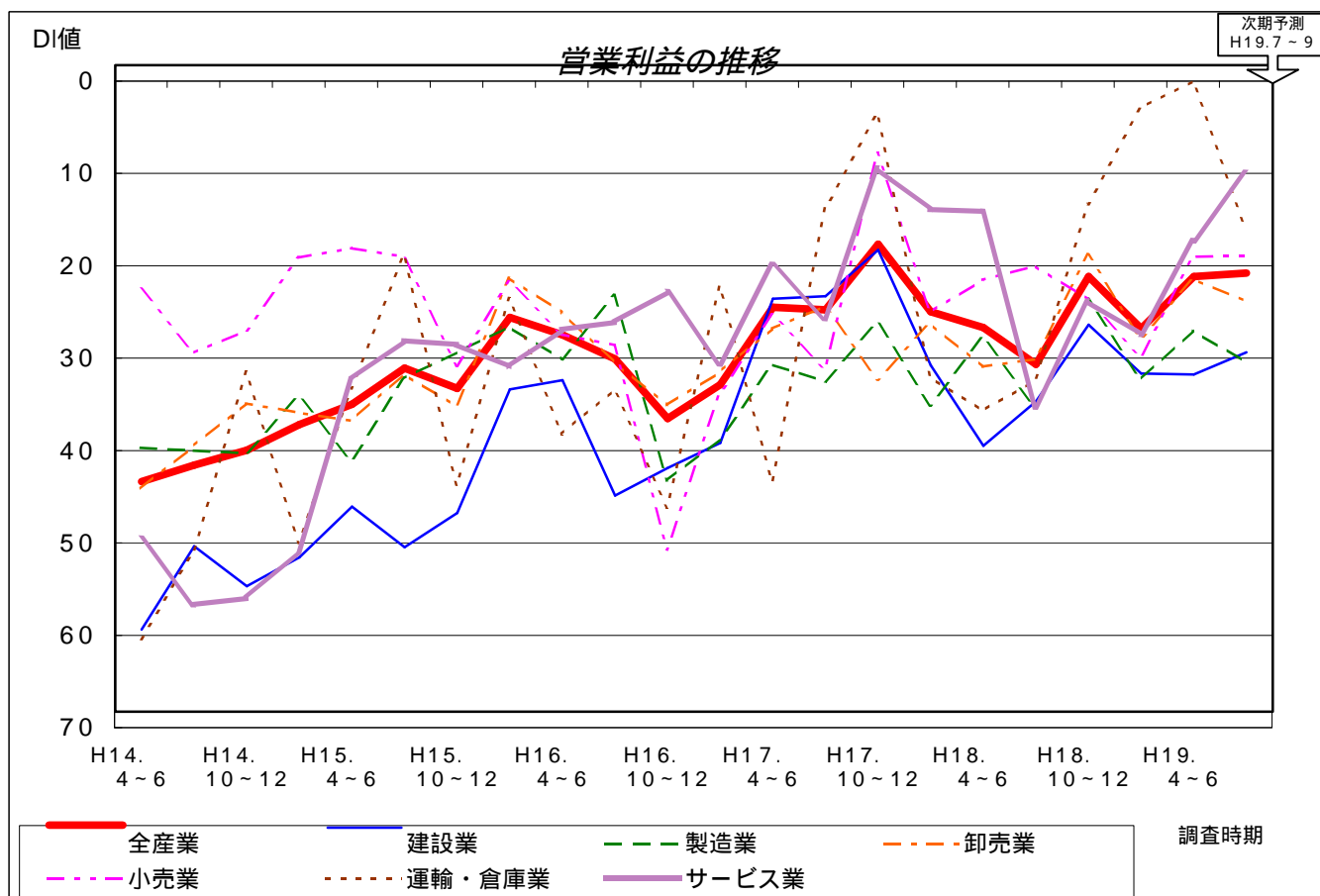
規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比+5.8ポイント（前期DI 29.9）、大企業では前期比+1.0ポイント（同 9.5）の改善となった。

次四半期予測DI値は22.5と、今期比で+0.4ポイントの改善が予測されている。

《営業利益（前年同期と比較して）》

（単位 %）

	今四半期（19年4～6月期）実績					次四半期（19年7～9月期）予測				
	増加	横ばい	減少	未記入	DI値	増加	横ばい	減少	未記入	DI値
全業種	16.1	42.5	39.0	2.3	22.9	10.3	48.8	32.8	8.1	22.5
建設業	9.6	46.1	43.1	1.2	33.5	5.4	49.7	36.5	8.4	31.1
製造業	16.5	38.3	43.5	1.7	27.0	12.2	43.5	42.6	1.7	30.4
卸売業	16.7	44.6	38.1	0.6	21.4	7.7	51.8	31.5	8.9	23.8
小売業	18.9	37.9	37.9	5.3	19.0	11.6	48.4	30.5	9.5	18.9
運輸・倉庫業	29.0	32.3	29.0	9.7	0.0	9.7	41.9	25.8	22.6	16.1
サービス業	17.9	44.4	35.2	2.5	17.3	16.0	50.0	25.9	8.0	9.9
中小企業	15.5	42.6	39.6	2.4	24.1	10.0	48.2	33.3	8.5	23.3
大企業	23.7	42.4	32.2	1.7	8.5	13.6	55.9	27.1	3.4	13.5



7. 売掛期間

《2期連続で改善、次期予測はさらに改善へ》

売掛期間は、「短縮化」と回答した企業割合は3.0%、「長期化」と回答した企業割合は10.0%、「不変」と回答した企業割合は82.9%となっており、D I 値は 7.0と前期比+1.7ポイント改善した。

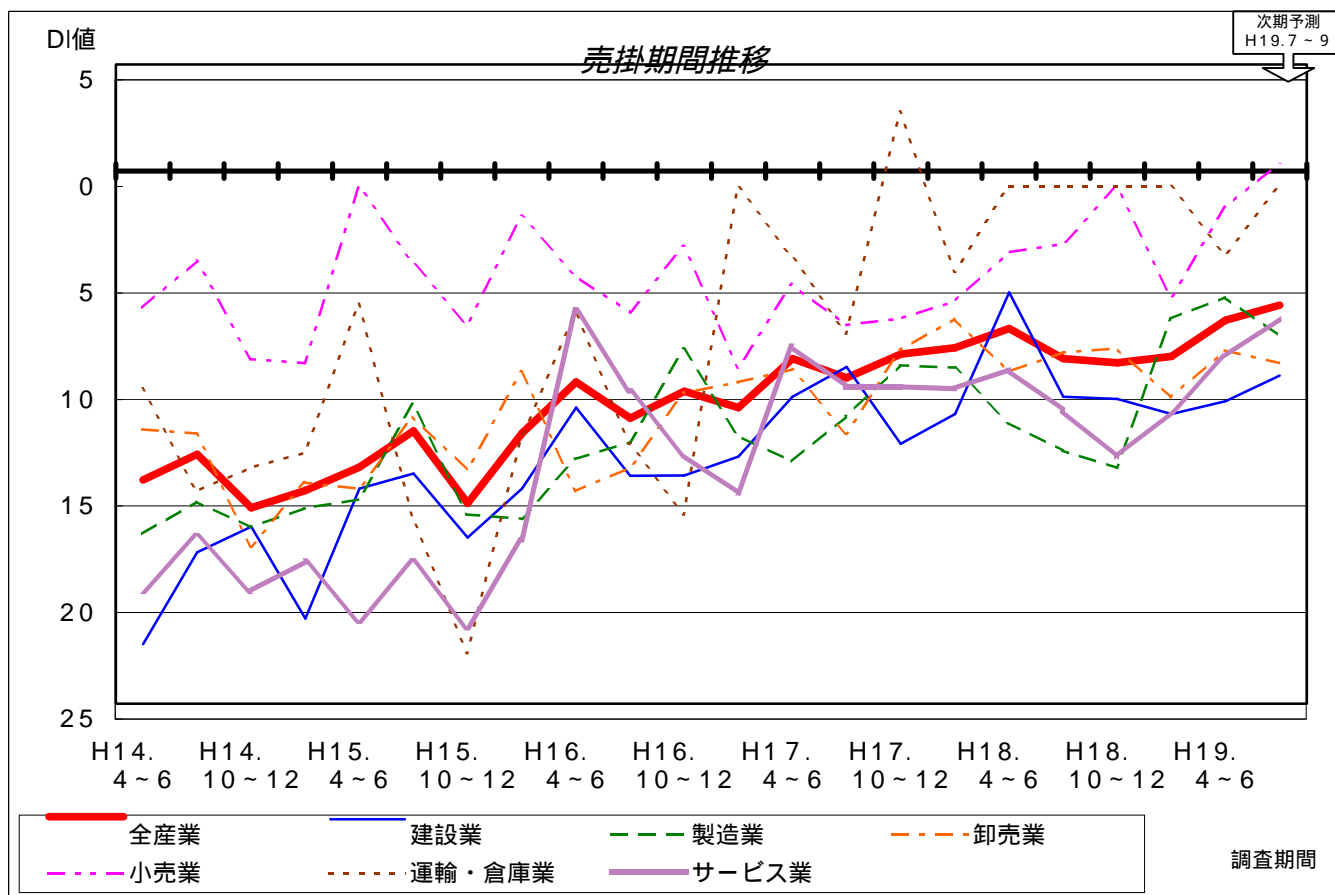
規模別のD I 値を見ると、中小企業は前期比+1.3ポイント（前期D I 8.9）、大企業では前期比+3.0ポイント（同 4.7）の改善となっている。

次四半期のD I 値については 6.3と、今期比で+0.7ポイントの改善が予測されている。

《売掛期間（前年同期と比較して）》

（単位 %）

	今四半期（19年4～6月期）実績					次四半期（19年7～9月期）予測				
	短縮化	不変	長期化	未記入	D I 値	短縮化	不変	長期化	未記入	D I 値
全業種	3.0	82.9	10.0	4.1	7.0	3.0	77.9	9.3	9.8	6.3
建設業	1.2	82.6	12.0	4.2	10.8	1.8	74.9	11.4	12.0	9.6
製造業	0.0	93.9	5.2	0.9	5.2	0.0	89.6	7.0	3.5	7.0
卸売業	4.8	80.4	12.5	2.4	7.7	4.2	75.0	12.5	8.3	8.3
小売業	5.3	83.2	6.3	5.3	1.0	5.3	77.9	4.2	12.6	1.1
運輸・倉庫業	0.0	87.1	3.2	9.7	3.2	0.0	87.1	0.0	12.9	0.0
サービス業	4.3	77.2	12.3	6.2	8.0	4.3	74.1	10.5	11.1	6.2
中小企業	2.9	82.8	10.5	3.8	7.6	2.8	77.5	9.9	9.9	7.1
大企業	3.4	84.7	5.1	6.8	1.7	5.1	83.1	3.4	8.5	1.7



8. 資金繰り

《2期連続で改善、次期予測は反転し悪化へ》

資金繰りについては、「楽である」と回答した企業は7.5%、「苦しい」と回答した企業は23.6%、「不変」と回答した企業は66.4%となっており、DI値は 16.1と前期比+4.3ポイントの改善となった。

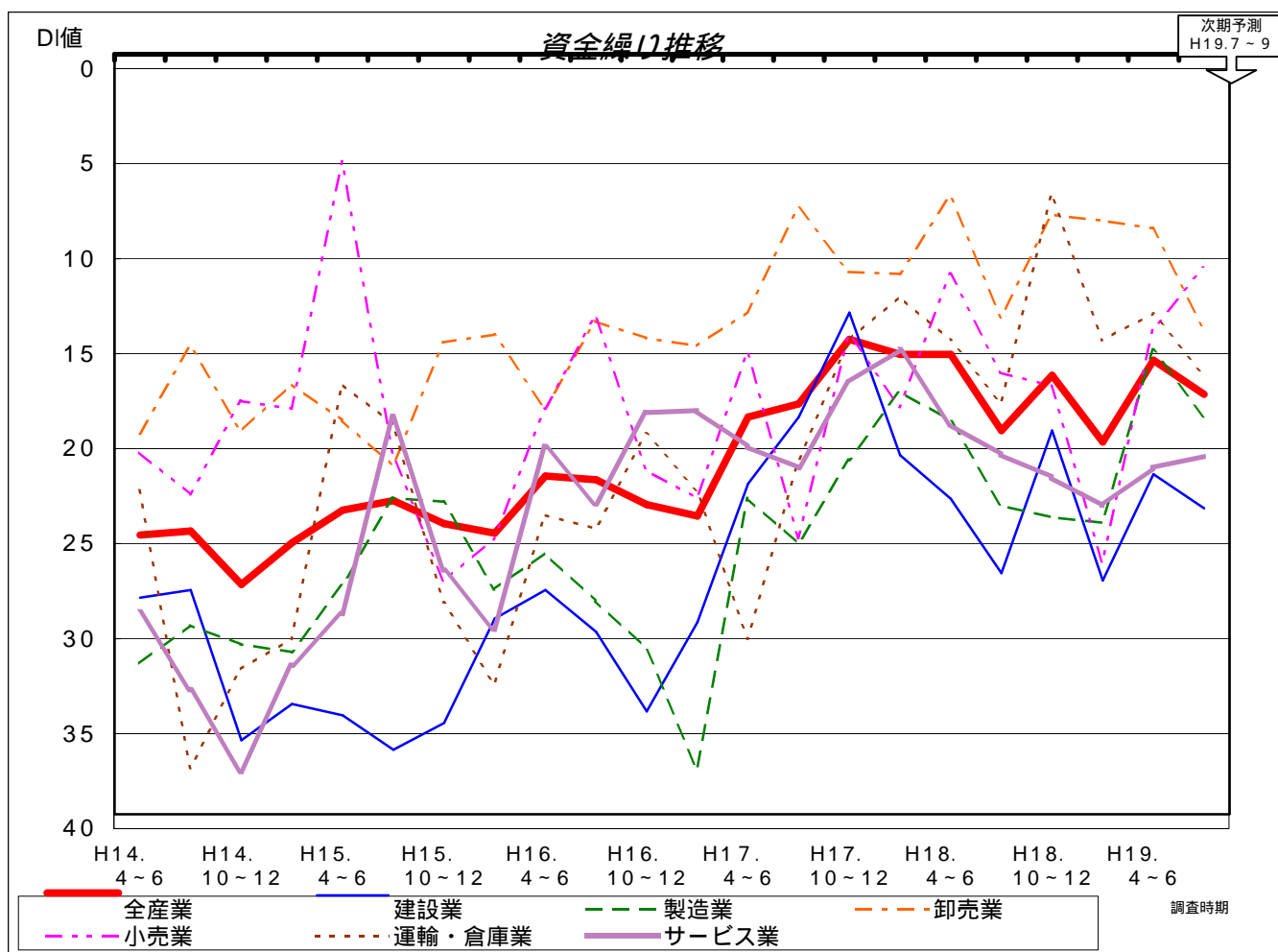
業種別に対前期比でDI値を見ると、小売業+12.3ポイント、製造業+9.1ポイント、建設業+5.6ポイント、サービス業+2.0ポイント、運輸・倉庫業+1.4ポイント改善したが、卸売業は-0.4ポイントの悪化となった。

規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比+4.3ポイント(前期DI 21.4)、大企業では前期比+2.0ポイント(同 7.1)の改善となった。

《資金繰り(前年同期と比較して)》

(単位 %)

	今四半期(19年4~6月期)実績					次四半期(19年7~9月期)予測				
	楽である	不変	苦しい	未記入	DI値	楽になる	不変	苦しくなる	未記入	DI値
全業種	7.5	66.4	23.6	2.6	16.1	3.8	65.4	21.7	9.1	17.9
建設業	5.4	64.7	27.5	2.4	22.1	4.2	58.7	28.1	9.0	23.9
製造業	10.4	63.5	25.2	0.9	14.8	5.2	67.8	23.5	3.5	18.3
卸売業	8.9	71.4	17.3	2.4	8.4	3.6	68.5	17.3	10.7	13.7
小売業	6.3	70.5	20.0	3.2	13.7	4.2	66.3	14.7	14.7	10.5
運輸・倉庫業	3.2	74.2	16.1	6.5	12.9	0.0	74.2	16.1	9.7	16.1
サービス業	7.4	61.1	28.4	3.1	21.0	3.1	65.4	23.5	8.0	20.4
中小企業	7.2	65.8	24.3	2.7	17.1	4.0	64.7	22.1	9.3	18.1
大企業	10.2	72.9	15.3	1.7	5.1	1.7	74.6	16.9	6.8	15.2



9. 100万円以上の新規借入

100万円以上の新規借入を「行った」とする企業は45.4%(前期43.9%)と前期比で+1.5%の増加となっている。一方で、「行っていない」とする企業は52.0%(前期54.0%)と前期比で-2.0%の減少となった。

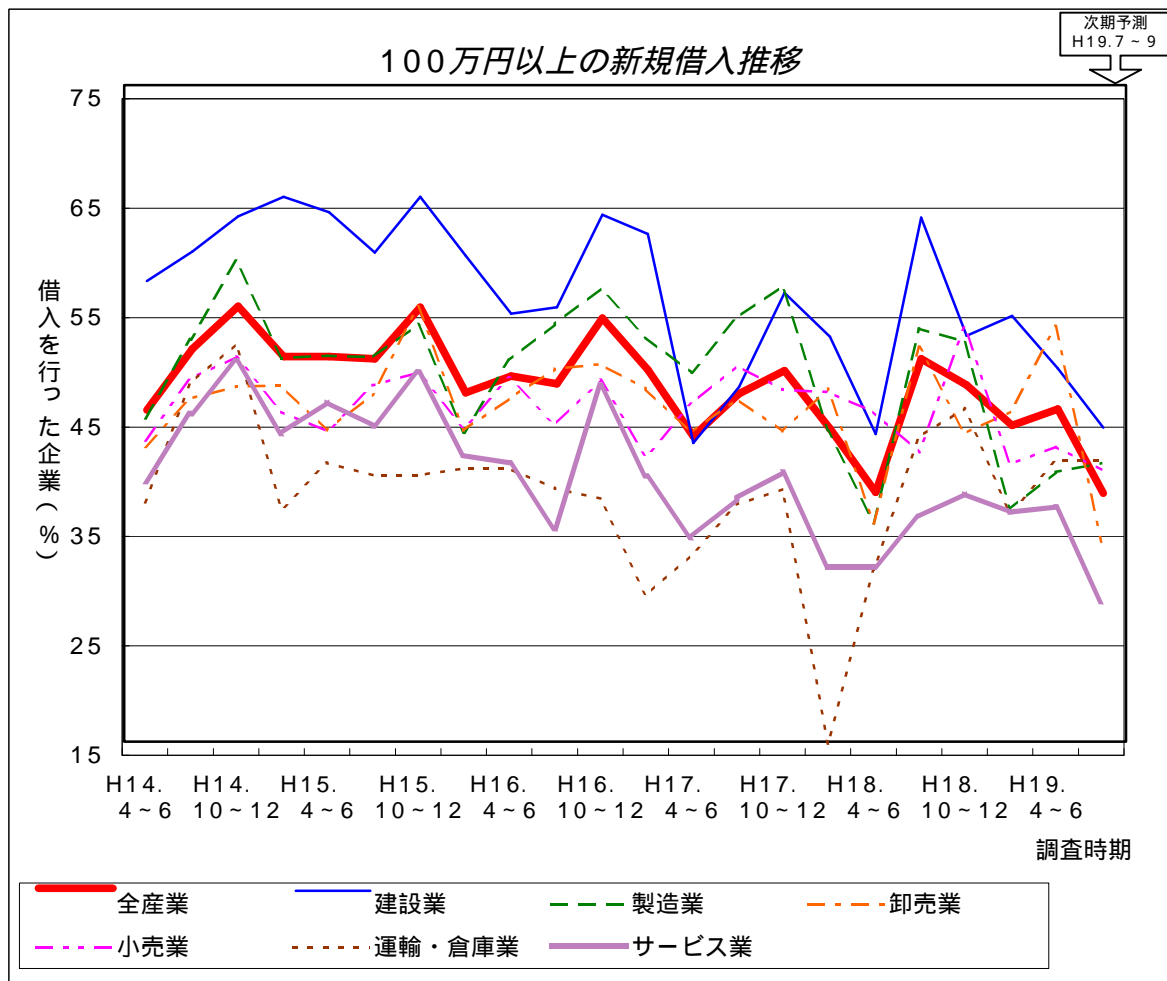
資金使途については、「運転」72.8%、「運転・設備」15.2%、「設備」5.4%という内訳になっている。

次四半期については、「行う予定」とする企業は37.7%、「行わない」とする企業は55.7%となっている。

《100万円以上の新規借入》

(単位 %)

	今四半期(19年4~6月期)実績			次四半期(19年7~8月期)予測		
	行った	行っていない	無回答	行う予定	行わない	無回答
全業種	45.4	52.0	2.6	37.7	55.7	6.6
建設業	49.1	47.9	3.0	43.7	49.1	7.2
製造業	40.9	56.5	2.6	41.7	55.7	2.6
卸売業	54.2	41.7	4.2	34.5	57.7	7.7
小売業	43.2	53.7	3.2	41.1	49.5	9.5
運輸・倉庫業	41.9	54.8	3.2	41.9	51.6	6.5
サービス業	37.7	62.3	0.0	29.0	64.8	6.2
中小企業	44.6	52.9	2.5	35.9	57.3	6.8
大企業	54.2	42.4	3.4	57.6	37.3	5.1



100万円以上の新規借入資金使途

(単位 %)

	今四半期100万円以上の 新規借入の資金使途(実績)				次四半期100万円以上の 新規借入予定の資金使途(予測)			
	運転資金	運転設備	設備資金	無回答	運転資金	運転設備	設備資金	無回答
全業種	72.8	15.2	5.4	6.6	70.9	16.2	5.8	7.2
建設業	75.6	13.4	6.1	4.9	84.9	11.0	1.4	2.7
製造業	72.3	17.0	6.4	4.3	66.7	20.8	10.4	2.1
卸売業	75.8	12.1	5.5	6.6	63.8	15.5	6.9	13.8
小売業	61.0	24.4	4.9	9.8	61.5	20.5	5.1	12.8
運輸・倉庫業	46.2	30.8	7.7	15.4	46.2	23.1	23.1	7.7
サービス業	78.7	11.5	3.3	6.6	76.6	14.9	2.1	6.4
中小企業	75.2	12.5	5.3	6.9	74.2	12.3	6.1	7.4
大企業	50.0	40.6	6.3	3.1	47.1	44.1	2.9	5.9

10. 100万円以上の設備投資

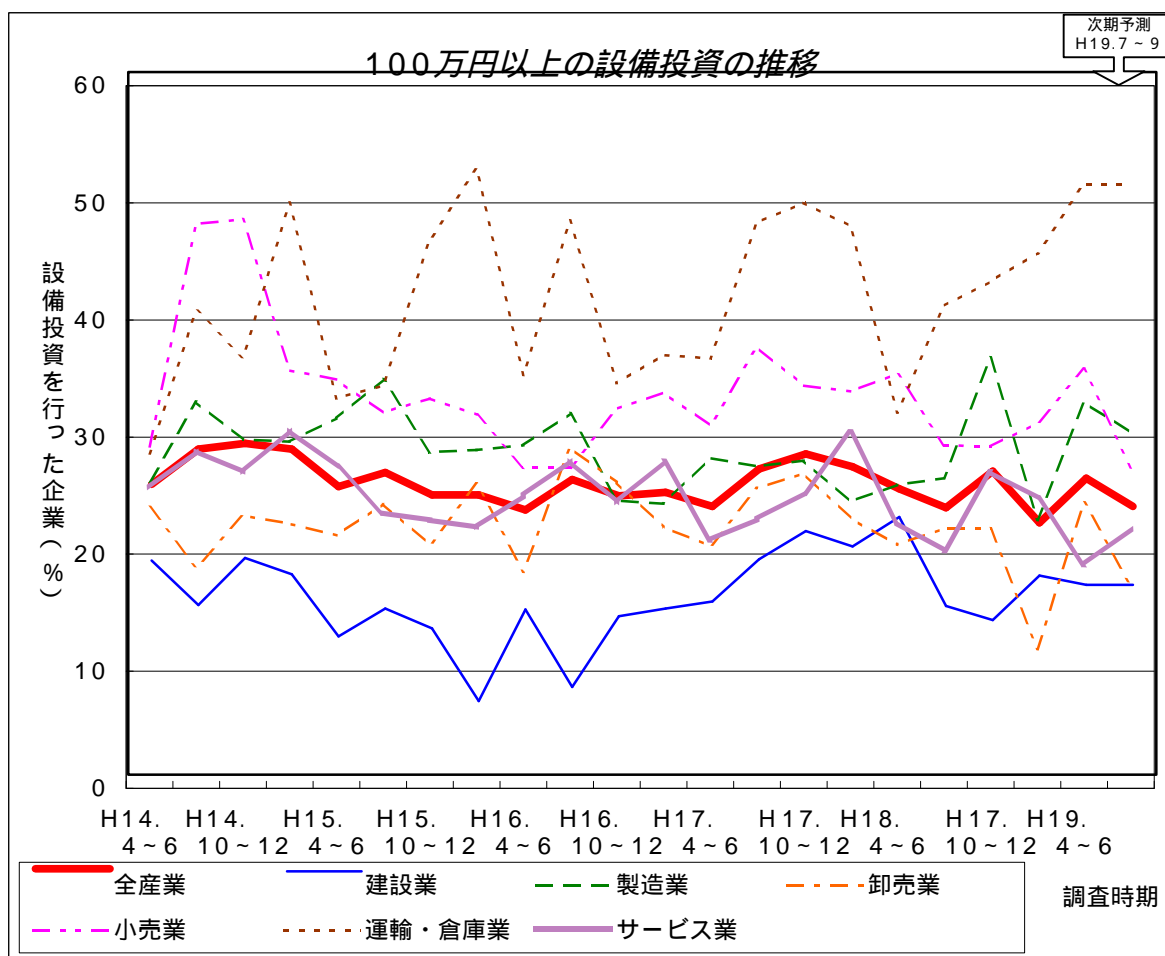
100万円以上の設備投資を「行った」とする企業は25.3%、「行ってない」とする企業は70.3%となっており、その投資内容については、「新規」24.1%、「新規・更新」36.9%、「更新」29.4%という内訳になった。

次期予測については、「行う予定」とする企業は22.9%、「行わない」とする企業は69.0%であり、その投資内容については、「新規」23.1%、「新規・更新」44.4%、「更新」27.2%となっている。

《100万円以上の設備投資》

(単位 %)

業種	今四半期(19年4~6月期)実績			次四半期(19年7~9月期)予測		
	行った	行ってない	無回答	行う予定	行わない	無回答
全業種	25.3	70.3	4.3	22.9	69.0	8.1
建設業	16.2	79.6	4.2	16.2	75.4	8.4
製造業	33.0	63.5	3.5	30.4	67.8	1.7
卸売業	24.4	69.6	6.0	17.3	70.8	11.9
小売業	35.8	60.0	4.2	27.4	61.1	11.6
運輸・倉庫業	51.6	35.5	12.9	51.6	38.7	9.7
サービス業	19.1	79.0	1.9	22.2	71.6	6.2
中小企業	21.9	73.6	4.4	19.7	71.9	8.4
大企業	64.4	32.2	3.4	59.3	35.6	5.1



100万円以上の設備投資

(単位 %)

	今四半期 100万円以上の 設備投資の資金使途(実績)				次四半期 100万円以上の 設備投資計画の資金使途(予測)			
	新規	新規、更新	更新	無回答	新規	新規、更新	更新	無回答
全業種	24.1	36.9	29.4	9.6	23.1	44.4	27.2	5.3
建設業	18.5	51.9	25.9	3.7	22.2	48.1	25.9	3.7
製造業	26.3	28.9	42.1	2.6	14.3	51.4	34.3	0.0
卸売業	41.5	22.0	29.3	7.3	34.5	31.0	31.0	3.4
小売業	14.7	50.0	20.6	14.7	23.1	53.8	11.5	11.5
運輸・倉庫業	6.3	43.8	31.3	18.8	18.8	43.8	31.3	6.3
サービス業	22.6	35.5	25.8	16.1	25.0	38.9	27.8	8.3
中小企業	28.2	30.9	30.9	10.1	26.9	39.6	28.4	5.2
大企業	7.9	60.5	23.7	7.9	8.6	62.9	22.9	5.7

11. 当面の経営上の問題点

当面の経営上の問題点としては、「受注、販売競争の激化」57.0%、「売上高、生産額、工事高の伸び悩み」50.9%、「営業利益の低下」40.7%の3項目を指摘する傾向が依然として続いており、全業種ともほぼ3項目に集中している。

他に指摘が集中した項目として、建設業の「官公需要の停滞」41.9%、「原材料高、入手難」32.3%。製造業の「原材料高、入手難」45.2%、「販売価格への転嫁難」37.4%。卸売業の「販売価格への転嫁難」30.4%。小売業の「同業者、類似店、大型店の進出」32.6%。運輸・倉庫業の「人材難、求人難、定着性の悪化」48.4%、「経費の増加」41.9%。サービス業の「人材難、求人難、定着性の悪化」39.5%が挙げられ、3割を越す指摘となっている。

《当面の経営上の問題点(複数回答可)》

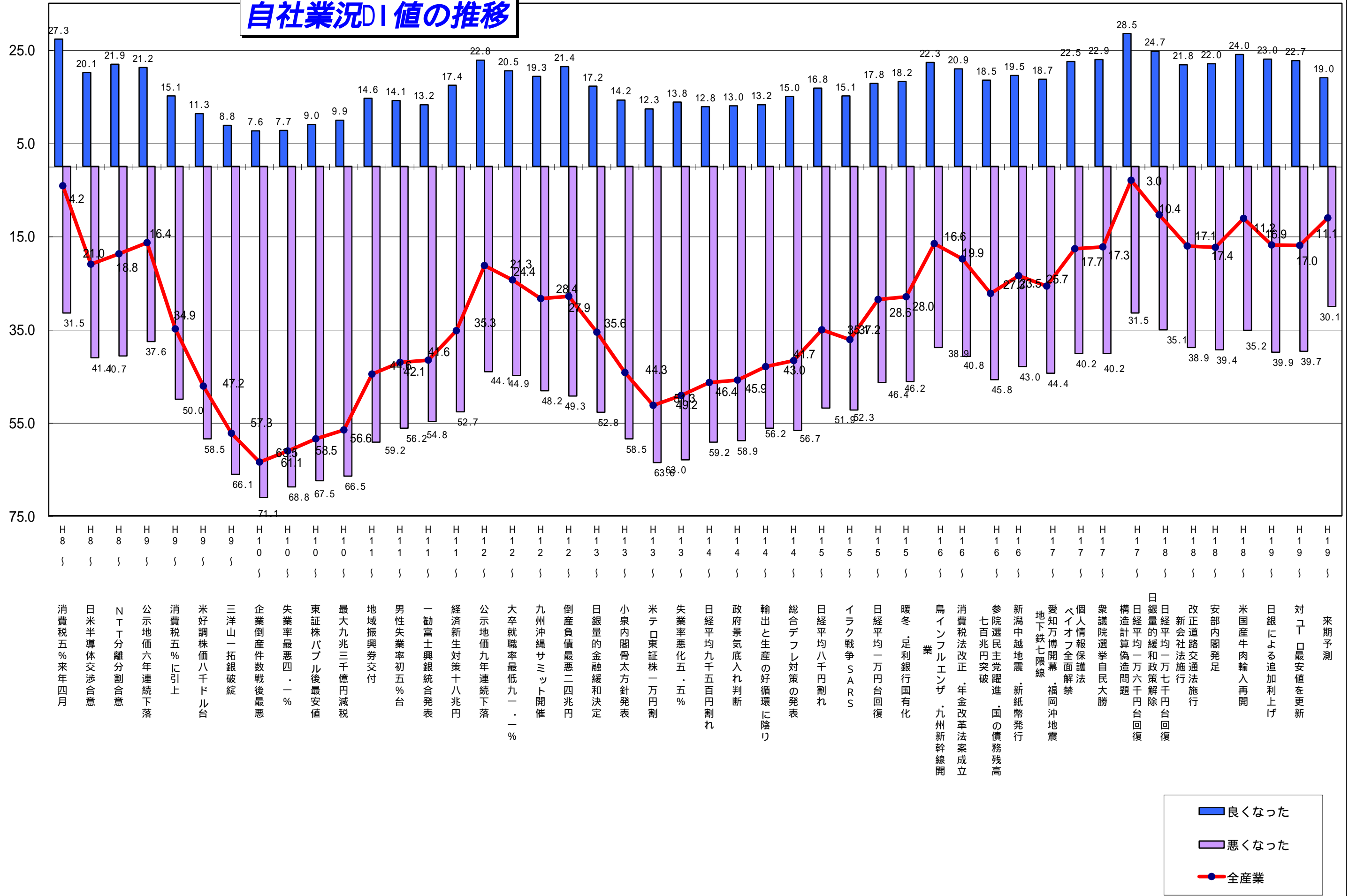
(単位 %)

問題点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	の受注、販売競争の激化、販売競争	び額売、上額、高の産伸	出店、業者、大型、店の進	官公需要の停滞	輸出不振	元請の減少	低下率、稼働率	難原材料高、入手	の出荷、納品価格	過剰在庫	嫁販売価格への転	増難販、代金の回収	化売、掛金の長期
全業種	57.0	50.9	15.4	19.1	0.1	6.5	3.8	24.4	14.4	4.6	22.1	5.6	8.3
建設業	70.7	58.1	11.4	41.9	0.0	19.8	5.4	32.3	7.8	0.6	12.0	3.6	9.6
製造業	62.6	51.3	11.3	13.0	0.9	4.3	7.0	45.2	18.3	8.7	37.4	1.7	6.1
卸売業	56.0	50.6	13.1	14.3	0.0	1.2	1.8	22.0	25.0	10.1	30.4	16.1	11.9
小売業	57.9	48.4	32.6	4.2	0.0	0.0	0.0	12.6	12.6	4.2	21.1	2.1	3.2
運輸・倉庫業	38.7	29.0	9.7	6.5	0.0	0.0	9.7	22.6	12.9	0.0	22.6	3.2	0.0
サービス業	43.2	49.4	16.0	16.0	0.0	4.9	3.1	11.1	8.6	1.2	13.6	1.9	9.3
中小企業	56.7	50.4	15.2	19.6	0.1	6.9	4.0	25.6	14.1	4.7	22.5	5.9	8.7
大企業	61.0	57.6	18.6	13.6	0.0	1.7	1.7	10.2	16.9	3.4	16.9	1.7	3.4

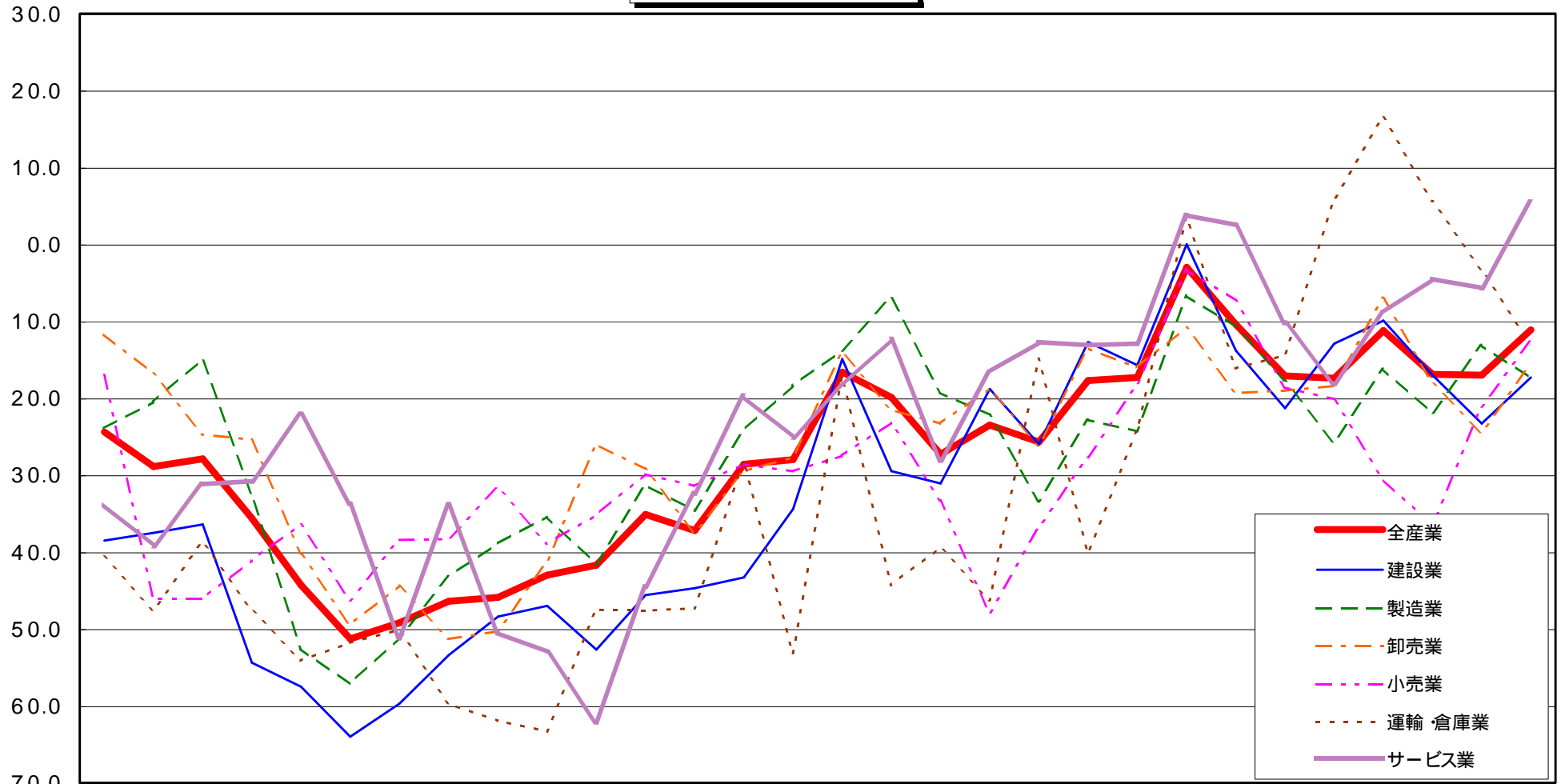
問題点	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
	経費の増加	営業利益の低下	不隘店代、剽店、が家、化難人、費人、対労、資、金利、難情、その他	足、舗、駐、車工場用の地狭	代剽店、舖、の老、朽、設、備、過、近	が家、り賃、地、代、の、値、上	化難人、材、定、着、性、求、の、人、悪	費人、増、手、過、剩、人、件	対労、策、務、管、理、組、合	資、金、借、入、難	資、金、借、入、難	金利、負、担、増、加	難情、報、不、足、人、材	そ、の、他
全業種	21.3	40.7	2.6	4.1	0.9	26.3	4.9	3.3	7.0	12.3	7.5	1.4	2.6	
建設業	13.8	46.1	1.8	1.2	0.6	28.1	4.2	1.2	6.6	12.6	6.0	1.2	0.6	
製造業	19.1	40.0	4.3	5.2	0.0	20.0	4.3	4.3	7.0	11.3	7.0	0.9	2.6	
卸売業	22.0	44.6	3.0	3.0	2.4	15.5	2.4	1.2	6.0	13.7	6.5	0.6	1.8	
小売業	20.0	32.6	2.1	6.3	0.0	20.0	1.1	3.2	6.3	15.8	9.5	2.1	2.1	
運輸・倉庫業	41.9	29.0	3.2	9.7	0.0	48.4	6.5	6.5	3.2	12.9	12.9	3.2	3.2	
サービス業	26.5	38.3	1.9	4.9	1.2	39.5	10.5	6.2	9.9	9.3	8.0	1.9	5.6	
中小企業	21.2	42.0	2.7	3.7	1.0	25.6	5.2	2.5	7.5	12.5	7.5	1.0	2.5	
大企業	22.0	25.4	1.7	8.5	0.0	33.9	1.7	11.9	1.7	10.2	6.8	5.1	3.4	

自社業況の景況判断推移（「良くなった」「悪くなった」別、時代背景参考）

自社業況DI値の推移



自社業況DI値の推移



	H12.4-6	H12.7-9	H12.10-12	H13.1-3	H13.4-6	H13.7-9	H13.10-12	H14.1-3	H14.4-6	H14.7-9	H14.10-12	H15.1-3	H15.4-6	H15.7-9	H15.10-12	H16.1-3	H16.4-6	H16.7-9	H16.10-12	H17.1-3	H17.4-6	H17.7-9	H17.10-12	H18.1-3	H18.4-6	H18.7-9	H18.10-12	H19.1-3	H19.4-6	H19.7-9
全産業	24.4	28.9	27.9	35.6	44.3	51.3	49.2	46.4	45.9	43.0	41.7	35.1	37.2	28.6	28.0	16.6	19.9	27.3	23.5	25.7	17.7	17.3	3.0	10.4	17.1	17.4	11.2	16.9	17.0	11.1
建設業	38.5	37.5	36.4	54.4	57.5	64.0	59.7	53.4	48.4	47.0	52.7	45.6	44.7	43.3	34.4	14.9	29.5	31.1	18.8	26.0	12.7	15.7	0.0	13.8	21.3	12.9	9.9	17.0	23.3	17.3
製造業	23.8	20.4	14.8	32.5	52.5	57.1	51.1	43.1	38.8	35.3	41.5	31.2	34.5	24.1	18.3	13.7	6.8	19.2	22.0	33.3	22.7	24.2	6.6	10.6	17.6	25.7	16.1	21.9	13.0	17.3
卸売業	11.6	16.7	24.6	25.3	40.1	49.4	44.3	51.2	50.2	41.2	25.9	29.1	37.4	29.4	27.6	13.9	21.4	23.2	18.7	26.1	13.4	15.9	10.7	19.2	18.9	18.3	6.9	17.9	24.4	15.5
小売業	16.9	46.0	46.0	41.0	36.3	46.2	38.3	38.2	31.5	38.8	35.1	29.8	31.3	28.5	29.4	27.4	23.1	33.2	47.9	36.7	27.6	18.2	3.2	7.2	18.5	20.0	30.5	36.4	21.0	12.5
運輸・倉庫業	40.5	47.5	38.6	47.4	54.0	51.7	50.0	59.6	61.8	63.2	47.4	47.5	47.2	28.1	53.1	17.1	44.2	39.3	46.2	14.8	40.0	24.1	3.6	16.0	14.3	5.9	16.7	5.7	3.2	12.9
サービス業	33.7	39.1	31.1	30.7	22.0	33.6	51.1	33.7	50.4	52.9	62.0	44.4	32.3	19.6	25.0	18.4	12.2	28.0	16.5	12.6	13.0	12.8	3.9	2.6	10.1	18.0	8.8	4.4	5.6	5.6